

『後夜祭』 2024年版

木村 繭真 作

【登場人物・女性6名】

未歩 高3
千鶴 高3
雛子 高2
真優 高2
夏実 高1
さえ 高1

歌『サライ』と共に幕が開く。

舞台は会議室。午後2時半、今日は学校祭。

長机の一端でパソコンに向かっている女子生徒がひとり。

イヤホンをつけ、『サライ』を口パクで歌っている。

そこへ、慌てた様子で真優がやってくる。

真優 ごめん遅くなった！なんかビンゴのほうトラぶっててき。商品とクジの数が違うとか言ってるよもうテンテコマイ。元からガチガチのプログラムだったけどさ、予想以上に押ししてるよこりや……雛子？

雛子、加山さんパートに入り、テンションが上がりサビを歌う。

真優、パソコンのイヤホンプラグを抜く。

雛子 ……あっ！

真優（笑み）いま来た。

雛子 え、見た？

真優 なに？

雛子 顔。

真優 見てない。てか見たくない。

雛子 気持ち悪いもんね……。

真優 一人で歌ってるときの顔って絶対やばいよね。

雛子 そう、ホント無理

真優 それでどう？進んでる？

雛子 いやあ、まず画像選ぶのにちよつと悩んじゃう。

真優 やっぱ手伝おうか？

雛子 ううん、ひとりでやる。

真優 気持ち分かんないでもないけどさあ、別に一人でやんなくたって誰も怒んないし。

雛子 そうだけど、大した仕事してないもん。
真優 そう？
雛子 そうだよ。
真優 よくやつてるよ雛子は。先生もそう言ってるし。
雛子 先生が？
真優 うん。なんての、リーダーシップあるし、声でかいし、面倒見いいし、あと、声でかいし。
雛子 声でかい2回言った。
真優 声でかいのいいじゃん。
雛子 いいのかなあ？
真優 声でかいと得でしょ。
雛子 例えば？
真優 例えば？え、そんな例えとか要求されると思わなかった。
雛子 ないんじゃない。
真優 あ、ほら。街中でバッグ盗られたときとか。
雛子 ドロボーって叫ぶの？
真優 待てー！って。
雛子 それ意味無くない？
真優 なんで。
雛子 だって待ってって言って待つわけないでしょ。
真優 それがあるんだなー。
雛子 なに？
真優 あんね、街中で人がいっぱいいるとき、待てーって叫んでみ。関係ない人は何事かところちを見るでしょ。
雛子 あ、わかった。
真優 言わせて。
雛子 はい。
真優 でも犯人だけは逃げることに必死でこっちなんで見ない。だから人ごみでも見失わないー。
雛子 言われてみればだね。
真優 へっへっへ。
雛子 でも背小さいと意味無いな。
真優 ……ん、なんだった？
雛子 いや、ほら、犯人でも盗られた側でも、小さいと、ほら、ねえ、結局、見えないから。
真優 あー。言われてみればだね。
雛子 それにまあ、もうちよつとなんかあるよね、きつと。
真優 なに？
雛子 声が大きくて得すること。
真優 いやー、ないでしょ。
雛子 ないよねー。

真優 良くてメガホンに使われるくらいじゃない？

雛子 メガホン？

真優 人型メガホン。人型拡声器。

雛子 静かにしてください、みたいなヤツでしょ？

真優 そうそう。

雛子 あれ困るんだよね。

真優 でもそういうの得意でしょ。

雛子 得意っていうか、別に嫌じゃないからやるんだけど。

真優 それがもうね、なんかさすが演劇部って感じ。

雛子 元ね。今は違うから。

真優 ねー、もったいない。

雛子 それよりデジカメ。預かるよ。

真優 そうだった。

真優、雛子にデジカメを渡す。

真優 厳選してあるから。

雛子 ありがとう。

真優 じゃー、あれだ。私ビンゴのほう手伝ってくる。

雛子 人足りてないの？

真優 ちよっとトラぶってて。

雛子 なに、どしたの。

真優 ううん、たいしたことじゃない。

雛子 ほんとに？

真優 ほんと。雛子はそれ早く作っちゃってよ。ないと祭りが終わらないでしょ。

雛子 うん……。

真優 閉会式は4時半。ガンバ、生徒会長。

真優、笑顔でガッツポーズをして去る。

雛子 あと2時間。やんなきゃ終わらない……よしっ。

雛子、デジカメとパソコンを繋ぎ、作業に戻る。

再びイヤホンをつけ、ロパクで『サライ』を歌い始める。音響なし。
間。

会議室の扉が勢いよく開く。

千鶴 たのもー！

雛子は気付かない。

千鶴 わ、広っ。なにこれ、会議室ってこんな豪華なんだ。へー。

雛子 (サビ部分を歌唱。目を瞑って歌っている)

千鶴 ……。

千鶴、雛子の顔をまじまじと見てニヤつく。

雛子 (目を開く。千鶴に気付いて) あああアアアアッ!?

千鶴 あ、どーも。

雛子 (イヤホンを取り、) ……へっへっへ。

千鶴 はっはっは。

雛子 ほっほっほ。

千鶴 うっふっふ。

雛子 見ました!?

千鶴 ん? 顔? 見てない見てない。

雛子 見られたあ……!

千鶴 しかも選曲が渋いよね、『サライ』って。加山ちゃんとし、誰だっけ?

雛子 加山さんと谷村さんです。

千鶴 そうそうタニムラちゃん。24時間で作ったにしては上出来だよねー。

雛子 ちゃんづけなんてやめてください、失礼です。

千鶴 タニムラ。

雛子 谷村さん!

千鶴 いいじゃん別になんて呼ぼうが。全国に何人いるんだよタニムラ。ウチのクラスにもいるよタニムラ。

雛子 そういうこと言ってる訳じゃ……ていうか、

千鶴 ああ、そうだった。あんね、ここに生徒会長っている? 用あるんだけど。

雛子 ……いるには、いますけど。

千鶴 どこ?

雛子 顔とか、知らないんですか?

千鶴 知るわけないじゃん。

雛子 投票、しましたよね。

千鶴 あんなの適当だよ適当。演説なんて誰も聞いてないって。

雛子 ……。

千鶴 あんたじゃないんだよね? 会長。

雛子 ええ。私は会長じゃありません。

千鶴 だよね。顔がなんか、アレだもんね。

雛子 アレ！？

千鶴 どこ行ったの？さつき生徒会室行ったらさ、会議室にいるって言うから来たんだけど。

雛子 あー。今ちよつと、トイレに行ってます。

千鶴 ふうん。じゃあすぐ帰ってくるね。ちよつと待たせてもらうから。

雛子 え。

千鶴 なに。

雛子 いえ、ちよつと、それは困るっていうか、やめたほうがいいかなって。

千鶴 なんです。

雛子 あの子ちよつと、トイレ長くって。

千鶴 便秘？

雛子 ……まあ、そんなもんです。

千鶴 でも別に1時間待ってるってわけじゃないでしょ。

雛子 もつと、かかります。

千鶴 え、そんな頑張んの？

雛子 だからその、よかつたら言づけますよ。会長に。

千鶴 でも急用だからさ。いま話つけないと意味ないんだよね。

雛子 どうかしたんですか？

千鶴 ー、まあ、下っ端に話しても意味ないだろーけど、

雛子 む。

千鶴 あんね、私は後夜祭をしたいのよ。

雛子 後夜祭？

千鶴 そう。後夜祭。

雛子 あの、それ会長に言ってもどうにもならないと思いますけど。

千鶴 なんです。会長ならできるでしょ、会長なんだから。会長だぜ？

雛子 後夜祭はやっちゃいけないって学校が決めてるんです。

千鶴 なんです。

雛子 帰宅時間が遅くなるからです。

千鶴 そんなだけ？

雛子 それだけでも十分なんです。

千鶴 別に夜中までやろうってわけじゃなくて、普段学校閉めるくらいの時間でいいんだよ。うちら7時くらいまでいっつも部活やってたからさ。

雛子 学校祭は4時半閉会式ってもう決まってるんです。

千鶴 決まってるって、生徒会が勝手に決めたんですよ。

雛子 違いますよ。先生が5時までには片づけ始められるようにって言うから……、

千鶴 え、なに。生徒会って学校のいいなり？

雛子 そういうわけじゃ、

千鶴 じゃあ後夜祭くらい認めてよ。

雛子 ー、無理です。

千鶴 ホラあ。やっぱいいなりじゃん。

雛子 そんなこと言われても

千鶴 ヘタレだね。

雛子 ヘタっ……、

千鶴 生徒会はヘタレの集まりだ。

雛子 いい加減にしてください。いきなりズカズカ入ってきて、凶々しいことばかり。

千鶴 なによその態度、あんた2年生でしょ！先輩に対する口のきき方じゃないんじゃない？

雛子 た、ただ年食ってるだけじゃないですか……。

千鶴 ハア！？あんたねえ、

雛子 ひい……、ご、ごめんなさい。

そこへ未歩が入ってくる。

未歩 あ、やっぱここにいた。

千鶴 なんだ未歩か。

未歩 誰か待ってるの？

千鶴 会長。

未歩 会長？

雛子 ……、

千鶴 なんかトイレ行ってるんだってさ。この下っ端が、ヘタレが言うにはさ。

雛子 ヘタレって言わないでください！

千鶴 ヘタレじゃんかあ！

未歩 ちよっとつるちゃん、なに言ってるの、やめてよ。

千鶴 だって。

未歩 だってじゃない。

千鶴 じゃあ未歩から言っつてよ、後夜祭やれっつて。

雛子 だから無理なんですっつてば。

千鶴 私はあるに言っつてんじゃないの。生徒会長に物申したいのよ。

未歩 ん？雛子ちゃんが生徒会長だよね。

問

雛子 ……。

千鶴 ん？雛子っつて？

未歩（指さし）雛子ちゃん。

雛子 へっへっへ。

千鶴 はっはっは。

雛子 かいちよう。

千鶴 かいちよう。
2人 あーっはっはっは。
千鶴 はああああ！？
未歩 えー……。
千鶴 なに、え、あんた会長！？
未歩 いま気付いたの？
千鶴 だってトイレ行ってるって、言うからさあ！
雛子 だって、なんか、むかつとしたんですもん。
千鶴 むかつとしたからって、いまどきの子だなあ！
未歩 まあでも気持ち分かんないでもないな……。
千鶴 でしょ？
未歩 雛子ちゃんの。
雛子 ですよー！
千鶴 ちよっとー。
未歩 だって普通生徒会長の顔くらい知ってるでしょ。
千鶴 だってー。
雛子 先輩ひどいんですよ。生徒会長選挙の投票、あんなの適当だよ適当って。
未歩 えー。
千鶴 だって。
雛子 演説なんて誰も聞いてないって！
未歩 うわー。
千鶴 だってー！
未歩 千鶴が悪い。
千鶴 てかなに、なんで未歩とヘタレ仲良いのよ。
未歩 部活一緒……だったから。
千鶴 あー、そっか雛子ちゃんか。思い出した。そーいや春頃言ってたね。
未歩 あ、
千鶴 なかなか部に馴染めない子がいるって。
雛子 え？
未歩 千鶴集合！（千鶴の襟首を引っ張って移動）
千鶴 ぐえっ。とれる、首、とれちやう。
未歩 なんて本人の前で言っちゃうかなあ。
千鶴 いいじゃん、もうやめたんでしょ。
未歩 そうだけど……。
千鶴 ー？
雛子 なんですか。
千鶴 後夜祭、やってもらおうじゃないの。
未歩 ちよっと！（雛子に）ごめんね、この子バカなの。

千鶴 バカあ？

未歩 あ、ごめん。(雛子に) ダメな子なの。

千鶴 悪化してない？！

未歩 だからほっといていいから。

千鶴 なによ。未歩だってやる気満々だったくせに。

未歩 そうだけど、よく考えたら無理だよ。

千鶴 なんて。

未歩 だって学校祭当日に決めたってなんにも準備できないじゃん。キャンプファイヤーとか、

千鶴 なんにもしなくていいんだよ。

未歩 え？

千鶴 学校祭が終わらなきゃそれでいいの。

雛子 なんですかそれ。意味分かんないです。

千鶴 ヘタレだもんね。

未歩 もう、それ言わないと喋れないの？

千鶴 うん。

雛子 なんですか、馬鹿の一つ覚えみたいに繰り返すキュウカンチョウ。名前とは大違いです
ね。

未歩 おー。

千鶴 関心すんなよ。

雛子 大体、1人が後夜祭をやりたと言ったからって、それこそ学校全体が動くなんて馬鹿な
話ないです。

千鶴 言っとくけど私ひとりの希望じゃないのよ？

雛子 え？

千鶴 これは全校生徒の意思なのよ。

未歩 いや、思いつきでしょ、衝動でしょ。

千鶴 言わないでよ。

雛子 じゃあ駄目ですね。

千鶴 いや、確かにみんなの口から聞いたわけじゃないよ？でもさ、言わないからって思ってな
いってことじゃあないでしょ。

雛子 それだと世の中誤解の嵐です。

千鶴 いや、可能性はあるってことよ。例えばこの未歩ね。

未歩 なに。あ、でも例えに使われるのって、なんか嬉しいかも。

千鶴 未歩が1組の松山くん「好きです、付き合ってください！」って声に出して言わなくても、
そう思っていないってことじゃあないでしょ？

未歩 ちよっと！！

千鶴 ん？未歩ちゃんなぜ焦る。

未歩 え。あせ、汗？いやいや、汗なんて全然。

千鶴 例えだぞ、例え。

未歩 わあってますよ、アハ、アハハ。

千鶴 てかむしろこういうことのほうが多いと思うよ私は。「後夜祭やりたい！けど無理だろなー。」
つて。ハナから諦めてる人はきつと多いよ。

雛子 逆にいえば。告白にしてもそうですけど、言えない程度なら所詮それだけの思いつてことです。

千鶴 何それ小難しいなあ。

未歩 (耳を塞いでいる)

雛子 あ！べ、別に先輩に言ったんじゃないんです！

未歩 え？なに雛子ちゃん。聞こえない。私、自分の声すら聞こえない……！ぐすん。

雛子 ああつ。

千鶴 どうなる未歩の恋。卒業まで時間がないぞつ！

雛子 時間……ああつ！

雛子、慌ててパソコンの作業に戻る。

千鶴 どしたの。

雛子 ないんですよ！

千鶴 なに。

雛子 時間が！

千鶴 え、未歩の恋の残り時間をパソコンで延ばすの？！

未歩 できるの！？

雛子 できません！あの、閉会式で『サライ』を歌うんです。みんなで。

未歩 『サライ』？『サライ』ってあの24時間で有名な？

雛子 はい。

千鶴 えー、なにそれ。

雛子 なんですか。

千鶴 そんなのみんな歌いっこないよ。

雛子 そんなことないですよ。

千鶴 失笑で終わっちゃうつて。

未歩 千鶴。

千鶴 だってそう思わない？

雛子 でも、それだけじゃないですもん。

未歩 ほかになんかあるんだ？

雛子 体育館を真っ暗にして、スクリーンに写真をスライドショーで映します。

千鶴 写真？

雛子 学校祭を楽しむみんなの様子を、デジカメで撮って編集したものです。

未歩 それを、サライをうたいながら流す？

雛子 はい。

千鶴 そしたら盛り上がる？

雛子 もちろん。
千鶴 えー。
雛子 なんですか！
千鶴 寒くない？まだ冬には早いよ。
雛子 まだあるんです！
千鶴 えー。
未歩 まだ言っていないじゃん。
雛子 みんなにペンライトを配って振ってもらいます！
千鶴 へー、そりやすごい。
雛子 ううっ……。
未歩 もうやめてよ。意地悪すぎ。
千鶴 率直な感想。思ってることは声に出してこそでしょ？
未歩 (千鶴を押しやり) それで、これ作ってるんだ。
雛子 (頷く)
未歩 なんか手伝おうか？邪魔したみたいだし。
雛子 いえ、未歩先輩は邪魔なんて。未歩先輩は大丈夫です。
千鶴 イヤな子。
雛子 ダメな子。
千鶴 あんた後輩でしょ！
雛子 ひい……。
未歩 ハイハイ、いい加減やめてください。
千鶴 未歩もさ、部活辞めちゃった子なんてほっときやいいのに。
未歩 そんなの関係ない。ってかつるちゃんちよっとヒドい。
千鶴 だって。
未歩 「だって」多いし。
千鶴 だってー！
雛子 あの、うるさいんですけど。
千鶴 ありがとう。でさー！
雛子 うう……。
未歩 おすすめ (千鶴をイスに座らせる)。
千鶴 (座って) 大体、生徒会入る人とかってイマイチ分かんないんだよね、私。だってメンドイじゃん。
未歩 (千鶴を目で威嚇)
千鶴 ま、人の好き好きだわね。
未歩 そうだよ。生徒会入って「学校盛り上げようぜ！」って思うのは別におかしなことじゃない。
千鶴 え、なに。生徒会ってそういう趣旨なの？
未歩 え？
千鶴 「学校盛り上げようぜ！」って思ってるの？
未歩 違うの？

千鶴 いや、知らないけど。未歩が言ったんじゃない。

未歩 少なくとも、私はそう思ってた。

千鶴 え、未歩入ってたの？

未歩 うん。1年生のとき。

千鶴 へえ、知らなかった。

未歩 そのときの会長が熱心な人でさあ。今って制服はスカートもズボンも、男女関係なく選べるじゃん？

千鶴 うん。

未歩 そのきっかけを作った人なんだよ。

千鶴 へえー。

未歩 女子がクラス会長になれないのはおかしいって訴えたりさ、

千鶴 え、それって女の人の？

未歩 あ、そうそう、歴代の生徒会長で、初めての女子だったらしいよ。

千鶴 えー、それなんかカッコ良くない？

未歩 でしょ？で、それ以来、立候補する女子増えたんだって。

千鶴 ほん。日本の国会もどうにかならんもんかねえ。

未歩 (笑み) 日本の未来は、私たちにしかかっているッ……！

千鶴 そういや今回も女子だよなあ(雛子を見る)。

未歩 でも選挙接戦だったじゃん、坪倉くんだった？

千鶴 知らない。

未歩 ほんとテキトーだね。

千鶴 ま、いわゆるあれだな、生徒による生徒のための生徒……あれ？なんだっけ。生徒のために、生徒……徒……

未歩 「生徒の、生徒による、生徒のための生徒会」？

千鶴 それ。誰だっけ、ベーターベンだっけ。

未歩 違うよ。

千鶴 チェ、チェ・ゲバラ？

未歩 エイブラハム・リンカーン。

千鶴 ああ、リンカーンね。

雛子 ぷすつ。

千鶴 あ、なんかいま笑ったな。ヘタ子、笑ったな！

雛子 だって、ベーターベンって。

千鶴 私や歴史苦手なのよ、理系だから。

雛子 (驚いた顔)

千鶴 なによ、そのあからさまに意外そうな顔。

雛子 いえ、体育会系かと。

千鶴 馬鹿にしてる？そりゃ私はバレー部の主将なんてのもやっていたからもちろん体育会系でもあります。しっかしね、文武両道しっかりやってんのよ。

雛子 バレー部？
未歩 つるちゃん頑張ってたよねえ。
千鶴 そうよ、頑張ったのよ私。頑張った！
雛子 でも1勝もできなかった。
未歩 え？
雛子 前々年度の大会までは県代表なんて当たり前前のレベルだった。なのに前年度の成績は練習試合に至るまでことごとく惨敗。
千鶴 は？
雛子 当初20人いた部員も1人辞め2人辞め、とうとう部員は7人。
千鶴 なんてあなたそんなこと知ってるのよ！
雛子 顧問はやる気なし。コーチも顔を出さなくなった。
千鶴 ……。
雛子 でも今年度のバレー部には部員が13人入って、経験者がいることもあり勝ち星をいくつもあげている……。賞状渡すとき調べるんですよ。これまでの活動について。
千鶴 ……あなたから賞状貰っても、ちっとも嬉しくないだろーね。
雛子 賞状なんてただの紙です。
未歩 雛子ちゃん。
千鶴 なにそれ。その紙欲しくてどんだけ頑張ったと思ってるんだよ！
雛子 そのためですか？
千鶴 は？
雛子 紙切れ一枚欲しくて、腕とか足とか擦りむいて、アザ作って声嘎らしてたんですか？
千鶴 あんた、言うこと屁理屈ばっか。
雛子 ……。
千鶴 本気で部活やったことないんだろ。
雛子 あります。
千鶴 じゃあなんで辞めたんだよ。
未歩 ねえ、そんなの今いいじゃん
雛子 私は、演劇が好きでした。だから自分なりにやってみました。
未歩 そうだよ。つるちゃんにも話したことあったじゃん。
千鶴 真面目で頑張り屋なんだって？
未歩 うん。それに、
千鶴 それに無口で愛想ない。
雛子 ……。
未歩 別に、そんなこと…、
千鶴 途中で放り投げた人に、とやかく言われたくない。まして、賞状なんて欲しくないわ。

雛子、会議室を出る。

千鶴 あー、せーせーした。
未歩 ……言いすぎ。
千鶴 ……わかってる。
未歩 いつつもそう。
千鶴 なんていうか、いつか大人になれるのかね、私。
未歩 そんなの、私だって同じだよ。
千鶴 あーあ。

間。

さえが少し扉を開け、こちらを覗いている。

未歩 ね、ねえ千鶴。
千鶴 ん？
未歩 あれ、誰かこつち見てない？
千鶴 どれ。
未歩 ほら、扉ちよつと開いてるじゃん。隙間！
千鶴 うわっ。え、え……？

おかしな間。

扉を閉じるさえ。

未歩 あ、閉めた。
千鶴 え、怖いんですけど。
未歩 女の人だったよね。
千鶴 ちよつと見て来てよ。
未歩 やだよ。
千鶴 あ、雛子ちゃんじゃない？行ってあげなよ。
未歩 じゃあ尚更つるちゃん行かなきゃ。
千鶴 やだよ気まずい！
未歩 私だって気まずいよ！

扉へ押し合う2人。

さえ、扉を開ける。

2人 わっ！！

さえ ……。

千鶴 びっくりしたー。

未歩 「わっ！！」って。

さえ ……いますか。

未歩 え？

さえ 生徒会長、いますか。

未歩 あー、今ちよつと、

千鶴 トイレ行ってます。

さえ、ぼーっと突っ立っている。

千鶴 ん？で？

未歩 さあ。

千鶴 なんか用？

さえ ……まあ。

千鶴 あれ、そんだけ？え、会話は？

未歩 話したくないんじゃない？

千鶴 でも、何あの態度。

未歩 つるちゃんっ、

千鶴 ちよつとあんた。

さえ ……（後ろを振り向く）

千鶴 いや、あんたしかいないでしょ！いる気がした？背後に誰かいる気がしたの？怖いな！

さえ 生徒会の人……？

千鶴 違うけど。

さえ ……あっちの人は。

千鶴 あれも一般人。

さえ ……。

千鶴 え、会話にならない！すごい！

未歩 （さえに）ごめんね。この子ダメな子だから。

千鶴 てか1年生でしょ、1年生。最近の若者は年上を敬うってことを知らんのかね。

未歩 つるちゃんがそれ言う？

千鶴 なに。

未歩 だっていつも「センサーなんて犬だ犬。ワンコじゃわ、あーっはっはー」って。

千鶴 それはそれ。これはこれ。

未歩 なにそれ。

夏実が駆けこんでくる。

夏実 遅くなりましたっ！！

千鶴 またなんか来た。

夏実 あの、途中で、その、あああ、データを、全部消しちゃって、あの……あれ？さえちゃん。

さえ おつかれ。

夏実 (笑み) ありがと。

千鶴 あれ、会話になってる。

夏実 さえちゃんどうかしたの？

さえ ……フランクフルト、売り切れだったから。

夏実 フランクフルト？

さえ うん。

夏実 模擬店の？

さえ うん。

夏実 えーっと…ん？それで？

千鶴 やっぱ会話になってない。

さえ 今日学校祭だって、弟に言ったら、「お土産、買ってきて」って、言われて。「何がいい？」って聞いたら「フランクフルト」って。

夏実 でも、玄関の横で売ってたの無かったんだよね？

さえ うん。

夏実 そしたらもう売り切れたんだと思うから、ちよつと言われてもどうにもできないかも…。

さえ ……。

千鶴 じゃあコンビニで買やいいじゃん。

さえ ……コンビニだと、器、ないから。

未歩 器？

千鶴 あーアレか。発泡シツロールの。

未歩 発泡シツロール？

千鶴 ホラ、あれだよ線の入ったヤツ。

未歩 それはわかるよ。それじゃなくて、発泡スチロールじゃないの？

千鶴 は？だからそうじゃん、そう言ってるじゃん。

未歩 言ってるないよ。

千鶴 言ってるって。ほら、発泡スチロール。

未歩 寿司ロール？軍艦巻き？

千鶴 あれ、おつかしいな。発泡ツシロ、発泡シユ、発泡チロル、チョコ食べたい。あ、訳わかんなくなってきた。

未歩 だから発泡シツロールだって。

千鶴 え、あんたさつき違ったよ。

未歩 うそっ。

千鶴 変わった。時代に流された感じ。

未歩 なにそれ。

千鶴 八方ふさがり。

未歩 ……八方美人。

千鶴 八方が八つ棟！

未歩 表が三つ棟玉堂造り！

2人 おーっ。

夏実 あの、発泡スチロール、ですよね。

千鶴 そうそう。発泡シツロール。

夏実 だったら……、

夏実、隅に寄せられた段ボールの中を探り、
発泡スチロールのトレイを出す。

夏実 あったあつた！ハイっ！

さえ ……。

夏実 売り切れちゃってごめんなさい（頭を下げる）。嘘、ついちゃうことになるけど、もしそ
んなんでよかったら、まだたくさんあるから。よかったら、使ってください。

さえ ……ありがとう。

夏実 ううん。

さえ ちゃんと、言う。売り切れだったって。

夏実 うん。

さえ ありがとう。

さえ、出ていく。

千鶴、夏実に握手を求める。

千鶴 私やー感動したよ！

夏実 え、あの、え？

千鶴 未歩、感想、言っただけ！

未歩 できた子っ！

千鶴 ねーっ？

夏実 てかあの、どちら様、ですか？

千鶴 名乗るほどの者じゃない！

未歩 あなた生徒会の人？

夏実 そうですけど……、

千鶴 いやあ、生徒会にもこんな良い子がいるんだね。

未歩 なにその目の敵にしてるみたいな。

千鶴 してるもん。

夏実 あ、そういえば会長は、どこ行かれたかわかりますか？

未歩 え、あーさっきからコレばっかだな。

千鶴 会長は用を足しに行きました。まあ、戻ってこないかもだけど。

夏実 え？

未歩 いや、実はね

扉が開き、雛子入る。

千鶴 あ。

夏実 先輩。

雛子 ……

夏実 あの、遅くなってすみま

雛子 ごめん。

夏実 え？

雛子 私が言い出したことなのに、ごめん。

夏実 先輩？

雛子 写真、ありがとう。

夏実 すみませんでした！

千鶴 はーい失敬（デジカメを奪う）。

雛子 あっ。ちよっと、返してください！

千鶴 いいけど、そしたら後夜祭やってくれる？

雛子 まだ言うんですか？

千鶴 当たり前じゃん。

雛子 何度も言いますが、後夜祭はできないって決まってるんです。

千鶴 またそれ？しつこいなあ。

雛子 どっちがですか！

千鶴 あーでもそうだったね。生徒会長って偉そうな名前の割に、なんにもできないヘタレだったよな。ごめんごめん。

雛子 先輩こそバレー部のダメ部長じゃないですか！1勝もできないって、あー、しよっぱい！

千鶴 え、ちよっと、後輩にしよっぱいって言われた！

雛子 ほら、もー先輩後輩うるさい時点で心が狭い。あーしよっぱい、しよっぱい！

千鶴 しよっぱい！？

雛子 もうね、しよっぱい通り越してしよっぱいです。

千鶴 後夜祭すらできないヘタレのくせに！

雛子 へたれてなくてもそんな権限ないんです！

にらみ合う2人

未歩 ねえもういいじゃん……。

千鶴 なに、結局あんたは一生徒と何も変わりやしないのよ。

雛子 一生徒で結構です。普通の生徒じゃないなんて思っていないですから。

千鶴 ほんとかよ。

雛子 本当です。
千鶴 ヘタレ。
雛子 しょっぱい！
未歩 わ、なんか目しょぼしょぼしてきた。
雛子 大体、そんなにやりたいなら先生に直接言ってください。これ以上私に言われても困ります。
千鶴 そんなのとづくに言ったわよ。
雛子 え。そしたらなんて。
千鶴 「無理」って一蹴されたわよ。
雛子 だったら、
千鶴 たぶんだけどね、私だからダメだったのよ。
雛子 というと？
千鶴 生徒の中で一番信用されてる人間なら聞いてくれるはず。
雛子 だから先輩も言ったじゃないですか、私にはなんにもできないって。
千鶴 あのね、あんたの声だからこそ伝わることもあると思う訳よ。
未歩 おーっ。
雛子 ……なんですか、それ。
千鶴 私は部活も勉強も成績悪いし、態度も悪いでしょ？
未歩 口も悪い。
千鶴 そう。だからそんな子が急にね、「うちの学校祭しょぼいのよ！後夜祭くらいやんなさいよ！」って言っても聞いてもらえないわけじゃないのよ。
雛子 それは言い方が悪かったんじゃないか……、
千鶴 つまりね、人間性の問題なの。
未歩 わ、なんか涙出てきたー。
千鶴 それでなくとも生徒会長なんてやってると、それだけで真面目で良い子って感じしない？
未歩 まあ。
千鶴 てかあれでしょ、よく言うじゃん、内申良くするために生徒会長やるって。
雛子 そんな、違います！
千鶴 じゃあなんで生徒会長なんてやってんの？
雛子 それは……、
千鶴 あ、そっか。部活辞める口実だ。
未歩 千鶴！
雛子 ……そう言われると、何も、言い返せません。
未歩 雛子ちゃん……、
雛子 もしかしたら、そんな気持ちがあったのかもしれませんが。でも、私は後悔してません。あの部活が私の居場所じゃないって、そう思ったから……。
未歩 見つけたんだね。
雛子 え？
未歩 (微笑み) すごいね、雛子ちゃんは。

雛子 先輩？

未歩 私もさ、部活始めた頃は馴染めなくて、よく理由付けてはサボってた。

雛子 先輩がですか？

未歩 うん。

雛子 想像、つきません。

未歩 今でこそね、演劇、大好きって言える。だから引退してからもよく顔出してるんだよ。

でも出し過ぎて、なんか煙たがれてるんだよね、私。

雛子 そんなことないですよ。先輩は優しいし、頼れる先輩です。私が言うのも、なんですけど……。

夏実 後悔、してるんですか？

未歩 うん。未練たらたら。サボってた頃の自分に言っただけ、「馬鹿」って。

千鶴 ……馬鹿。

未歩 へへ。

千鶴 なに嬉しがつてんのよ。

未歩 ……べつに。

問

夏実 あの、先輩たちは、どうしてそこまで後夜祭がしたいんですか？

千鶴 どうして？

夏実 学校祭、楽しくないですか？

千鶴 閉会式で『サライ』歌わなきゃ満足。

雛子 あの、言わせてもらいますけど。

千鶴 どうぞ。

雛子 何もせずにただ楽しむだけの人に、好き勝手言われたくありません。

千鶴 じゃあなに、楽しむ代わりに感謝でもしろっての？

雛子 そんなこと、

千鶴 言ってるじゃん。

夏実 先輩は、ただ、楽しんでほしいと思って考えたことに、文句言われるのが悲しいってことを、言いたいんだと、思います……。

未歩、千鶴の手からデジカメを奪う。

千鶴 あ。

未歩 はい。ごめんね、邪魔ばっかしちゃって。

千鶴 邪魔って何よー。

未歩 雛子ちゃんたちには仕事があるの。さ、やっちゃってやっちゃって。

雛子、礼をし、作業に取り掛かる。

千鶴 あーあ。

未歩 私も、ただ終わってほしくなかっただけだ。

千鶴 学校祭？

未歩 うん。ほら、これ終わっちゃったら、もう、ホントに受験しかないじゃん？それがなんか、怖かったんだと思う。

千鶴 そんなの、みんなそうじゃない？

未歩 やっぱり、千鶴もそう？

千鶴 さあ。

未歩 さあって。さっき言ってたじゃん、「学校祭が終わらなきゃそれでいい」って。

千鶴 私は別に、怖くはない。でもちよっとだけ、これで良かったのかって、思った。

未歩 なにが？

千鶴 まあ、部活とか、進路。

未歩 バレーはつるちゃん頑張ってたじゃん。

千鶴 そうだけだよ。やっぱ勝てなかったのは悔しい。

未歩 でもやるだけやったんじゃないの？

千鶴 そりゃあね。

未歩 じゃあいいじゃん。私なんて不完全燃焼。燃え始めるのがすんごく遅かった。

千鶴 まだくすぶってんの？

未歩 うん。

千鶴 そっか。

未歩 進路だって、前から決まってたじゃん。

千鶴 ……。

未歩 リハビリする人でしょ？よく分かんないけど、カッコいいと思うもん。

千鶴 でもさあー……、

未歩 なに、その遠い目。

千鶴 私中2のときに怪我してさ、入院したのよ。

未歩 屋根から落ちたんでしょ？

千鶴 あれ、言っちゃった？

未歩 聞いた。なんで屋根なんか登るんだよって笑った。

千鶴 いいじゃん別に。

未歩 星見ようとしたんだっけ？

千鶴 そんなことまで知ってんの？！

未歩 だから言っちゃったじゃん自分で。

千鶴 うそー。

未歩 1年生のとき言ってた。

千鶴 なんちゅう不覚だ。

未歩 でもそれがきっかけなんでしょ、リハビリ。

千鶴 まあね。
未歩 すごいと思うなあそういうの。
千鶴 なにが？
未歩 だってちゃんとした理由があるから。私なんてぼやっとしか見えてないもん。
千鶴 そりゃあんた頭いいから。
未歩 いやいや、関係ないし。
千鶴 あんたならどこだって行けんじゃん。
未歩 どこだっては言いすぎ。つるちゃんだって勉強はしてるでしょ？
千鶴 まあね。
未歩 むしろ大変なんじゃない？病院とかで働くんでしょ？
千鶴 うん。働く場所はたくさんあるんだ。就職先があるかは別だけど。
未歩 そうやってさ、将来のこと考えられてる人って羨ましい。
千鶴 いやね、そうでもないのよ実際。
未歩 え？
千鶴 みんなの話聞いとると最近思うわけ。建築士とか教師とか、お菓子職人、美容師、なんか怪しい研究員。ドバイに行くーなんて人もいるし、すぐ就職する人もいる。3組の前井なんて、放浪の旅に出るって言ってんだよ？
未歩 あー、自分で書いた詩を売って生活するって言ってたね。
千鶴 このまま流れに乗るのは嫌だ！とかなんとか言ってさ。
未歩 本気で言ってるところがすごいよね。
千鶴 そうなの。だから一瞬惚れそうになった。
未歩 え！？なに、好きなの？
千鶴 寝て起きたら冷めてた。
未歩 早っ。
千鶴 それに引き換え私はさ、ここまでなんにも考えずに来ちゃってて……もしかしたら、ほかにあったんじゃないかって、思った。
未歩 ……
千鶴 もっといろんなこと、見とけばよかった。
雛子 後悔、してるんですか？
千鶴 ……今更、だけどね。
未歩 今更、か。
千鶴 なんかうちら、やっちゃったって感じだね。
未歩 ……あとのまつり。
千鶴 え？
未歩 (笑み) 後の祭り。
千鶴 (笑み) 後の祭り。
2人 後夜祭。

2人、笑う。

そこへ真優が慌ててやってくる。

真優 雛子ー！

雛子 どしたの？

真優 ステージ、なんか照明点かなくなっちゃったんだって！

雛子 え！？今どこまでいってるの？

真優 バンド終わったところ。

雛子 じゃあ、

未歩 次、演劇部だ。

千鶴 ヤバいじゃん。

未歩 先生に言った？

真優 え？あ、はい。宮田先生に。

未歩 宮田より加藤に言ったほうがいい。

雛子 はい。

真優 真澄先生、雛子のこと呼んでるから、行って。

雛子 でも、

真優 あれは私やとくから。会長のあんたがいないとステージ止まったまんまなのよ。

雛子 ……。

未歩 千鶴。

千鶴 ハイハイ行ってらっしゃい。

未歩 (雛子に) 私も、様子見に行っていく？

雛子 先輩……、

未歩 駄目、かな？

雛子 (首を横に振り) 行きましょう。

未歩 うん。

雛子 ごめん、全然進んでないけど、お願いね。

真優 おっけ。

未歩と雛子、出ていく。

残る千鶴、真優、夏実。作業に取り掛かる真優と夏実。

真優 え、全然足りなくない？

夏実 あ、それが

千鶴 あんさー。

真優 はい？

千鶴 なんか、手伝うこと、ないかな？

真優 え、いや、でも

千鶴 いいのよ。ほら、なんでも言いなさいよ。

真優 これは生徒会の仕事ですから、手伝ってもらおうわけには……、

千鶴 なに固いこと言ってるのよ。生徒会は学校を、生徒を盛り上げるための会でしょ？

あんたは生徒。私も生徒。いいじゃん、結局みんな生徒なのよ！

間

真優 ど、どうも。

千鶴 なにそれ。

真優 いえ。あの、じゃあそんなに大した仕事じゃないんですけど、そこにペンライト、あるんで、全部袋から出しておいてもらえますか？

千鶴 よいよ、よいよ。お安い御用だよ！

千鶴、ペンライトの袋を破っていく。

真優（夏実に）誰？

夏実 いやあ、雛子先輩の先輩の友達、ですかね。

真優 3年生ってことしか分かんないってことだね。

夏実 はい……。

千鶴 これさー、どこやっときゃいいの？

真優 あ、それは、

夏実 あ、私行きます。えっとそれはこれに……、

真優（笑み）よし、やるか！

しばらくの間。

キーを叩く音と袋を破る音だけが部屋に響く。

千鶴 ……なんていうかさ、

夏実 はい？

千鶴 地味ーっ！

夏実 え？！

千鶴 やっぱさ、地味だよ。これ。

真優 どうしたんですか？

千鶴 いや、盛り上がる？これ。これ振って『サライ』歌ったら盛り上がるの？

夏実 それは、きつと盛り上がりますよ。

千鶴 てかこの作業がもう地味。

真優 わかりませんよ。

千鶴 え？

真優 盛り上がるかどうかなんて、そんなのわかりません。
夏実 先輩。

千鶴 確信がないのにやるんだ。

真優 私たちは盛り上がると思ってます。そうじゃないとやりません。でも、
千鶴 でも？

真優 みんなが盛り上がるうとしてくれてこそ、盛り上がるんだと思います。

千鶴 ……もっかい言って。

真優 え。

千鶴 なんか盛り盛り言ってる訳わかんなくなった。

真優 要は、楽しんでくださいってことです。

千鶴 要しすぎてない？

夏実 あ、わかった。

千鶴 わかったの？

夏実 要はあれですよ

千鶴 また要すの？

夏実 楽しもうと思えば楽しめるんですよ！

千鶴 ああ…あれか。要は心意気ってことね！

夏実 そうですよ！

真優 なんかズレてない？

千鶴 そうよ、祭りは心意気よ！サブちゃんも歌ってるわ。祭りだ祭りだってね！

夏実 一緒に踊りましょう！

千鶴 おう！

夏実、千鶴、手を繋いで踊り出す。ぐるぐる回り、酔う。

2人 おえー。

真優 なにしてるんですか！

千鶴 酔った…。

夏実 酔いました…。

千鶴 要は、酔ったのよ。

真優、作業に戻る。夏実、袋を破く。

千鶴 うん。未歩がいないと、こんなもんだ。

夏実 ……必死なんです。

千鶴 ん？

夏実 新谷先輩。

千鶴 誰それ。

夏実 生徒会長です。

千鶴 ああ。

夏実 今回の生徒会メンバー、何人か知ってます？

千鶴 さあ。見当もつかない。

夏実 14人です。

千鶴 多いの？

夏実 少ないです。

千鶴 でも私が部長だった頃のバレー部の倍。

夏実 えーっと。

真優 生徒会っていくつも部局が分かれてるんです。企画、広報、書記、会計……会長と副会長を

除けば、各部局に2人か3人しか入れません。前期は、40人近くいたんですけど……。

千鶴 40人!? 減ったねえ。なんで？

夏実 ……。

真優 男子がたくさん抜けたんです。雛子と一緒に立候補してた坪倉くんは、副会長にはなってくれ

ませんでした。生徒会自体やめてしまっただけで、ほかの男子たちもついていきました。

千鶴 何それ、女が会長じゃ不満ってこと？今の時代に？

真優 たぶん、いつまで経っても変わらない人は、一定数いるんだと思います。

千鶴 えええーっ。

真優 でも諦めません。私たちの代でへこたれる訳にはいけません。引き継いで、闘い続けて示すんです。

古いルールや、差別の意識が変わるまで。一人ひとりが、今の自分を愛せるように。

千鶴 ……革命家じゃん。

真優 (笑う)

夏実 (泣きながら) でもほんと、先輩たちは革命家です、エボリューションです!

真優 なに泣いてんの。

夏実 だってえ……。

千鶴 でも、大変そうだね。

真優 まあ、生徒会が関わる行事って結構多いんです。それでなくとも地域の仕事とかにも駆り出されまっすし。

千鶴 え、外の仕事もあんの？

真優 はい。

千鶴 タダで？

真優 (笑み) 企画・運営、裏でやってることは確かに地味です。誰かに褒めてもらえるわけでもありません。でも一緒に協力して何か作り上げるのは、楽しいことです。

夏実 休みの日に学校で話しあったり、宿泊したりもするんですよ。

千鶴 え、泊りで？

夏実 すんごい楽しかったですよね?先輩。

真優 ぜーんぜんっ。私がどれほど怖い思いたか分かってないんですよ。

夏実 (笑み) だってわかりませんもん。

千鶴 なんかあったの？
夏実 宿泊の日、先輩の誕生日だったんです。それでちょっとしたドッキリ企画をやったんですよ。
千鶴 どんな？
真優 言わないですよ？！
夏実 ゾンビの被り物と、あと鹿の被り物を被って、夜廊下で追い回したんです先輩のこと。
千鶴 真っ暗で？
夏実 お風呂あがりに。
千鶴 そりゃ怖いわ。
夏実 そしたら先輩泣いちゃって
真優 だってあんなのヒドすぎるよ！みんなの人間性を疑ったね。
千鶴 はは、見たかったな。
夏実 でもそのあとまた泣いて
真優 ハイ、それ以上言ったら生徒会から追放。
夏実 えーっ！
真優 当たり前よ。口より手え動かしなさい手を。
夏実 はあい。
千鶴 ……なんか、イメージ崩れた。
夏実 なんのですか？
千鶴 や、生徒会つてもっとこう、しかめっ面して堅苦しいもんだと思ってた。
夏実 (笑み) やるときはやりませう。でもみんないつも楽しんでやってますよ。
千鶴 (天井をだらり見上げ) なに？「楽しい」って。
夏実 え？
千鶴 さつきから楽しい楽しいって言ってるじゃん？なんか、言葉ばっかでよくわかんない。
夏実 そうですか？
千鶴 なに、具体的に生徒会って何やってんの？
夏実 ええと、文化部発表週間、球技大会、体育大会、募金・清掃ボランティア、マリ共和国
ジャージ贈ったり、あいさつ運動したり
千鶴 あー、やったやったあいさつ運動。
夏実 先輩が？
千鶴 なんか遅刻しすぎた人が駆り出されてね。
夏実 ああ。やってどうでした？
千鶴 朝早い。
夏実 それは、そうですよ。
千鶴 あと恥ずかしい。言うほうもだし、たぶん言われるほうも恥ずかしい。
夏実 それはありますね。
千鶴 でしょ？それに音楽聴いててシャットアウト！してる人もいるし。
夏実 でも、返してくれる人もいましたよね。
千鶴 そう、だね。

夏実 そんなとき、ちょっとだけ気持ち良くないですか？

千鶴 …… 忘れた。

夏実 え？

千鶴 だって、正直あんまり反応とか見てなかったし、声、あんま出してなかったし、てか、恥ずかしいし……。

真優 来週、あいさつ週間ありますよ。

千鶴 なに、出ろっての？

夏実 あは、いいじゃないですか！

千鶴 なが。

夏実 あいさつ、一緒にしましょうよ。

千鶴 何言ってるの。3年生だよ3年生。受験なの。

夏実 関係ないですよ。

千鶴 あるよ。朝キツいもん。ってーのはまあ、3年間ずっとか。

夏実 きつと楽しいですよ。

千鶴 …… まあ、考えとく。

夏実 はい。

間。

千鶴 一緒なのかなあ。

夏実 ？

千鶴 バレーでも演劇でも、基礎練って地味じゃん。でも、みんなやって、本番で一緒に飛んではねて声出して、何かに勝とうとする……生徒会も、そんなもんなのかな。

真優（笑み）先輩、バレー部だったんですか？

千鶴 うん。

真優 私はバスケ部です。

夏実 私はテニス部です！

千鶴 生徒会も部活も、やってて楽しい？

夏実 はい。

真優 もちろん。

千鶴 今、楽しい？

2人 はい。

千鶴 そっか。

真優 先輩は受験勉強、大変ですか？

千鶴 うん、それなりに。

真優 不安、ですよね？

千鶴 うん。すんごく。

夏実 受かるといいですね。リハビリの、学校。

千鶴 ありがとう。

千鶴と夏実、袋を破り終え、

千鶴 はい終了ー。

夏実 終わりました。

真優 ありがとう。

千鶴 ほかは？なんかある？

真優 いえ、あとはプロジェクターの用意とかなんで、ここでできることはないです。

千鶴 なんだ、もう終わり？

夏実（時計を見て）あと1時間ですね。

千鶴 ステージのほう大丈夫かな？

夏実 どうなんでしょう。先輩、様子見てきますね。

真優 うん、お願い。

夏実、出ていく。

千鶴 私が言うのもなんだけどさ

真優 はい？

千鶴 できた後輩だねえ。

真優 上司ができた子なんで。

千鶴 ……みたいだね。

真優 ところで先輩はなんでここにいるんですか？

千鶴 ああ。いや、もういいの。なんでもない。

真優 すみません、なんか見知らずの先輩に手伝ってもらっちゃって。

千鶴 いや、手伝ったうちに入らないし。むしろ邪魔してたから。

真優 どうでした？

千鶴 ん？

真優 学校祭、楽しかったですか？

間

千鶴 私……、

未歩と雛子が入る。

雛子は少し泣いている。

真優 どしたの雛子。

雛子 ……、

真優 なんか言われた？

雛子 ううん、

未歩 嬉しかったみたい。

真優 ？

雛子 照明、点かなくてさ……時間押してたし、次のステージ競技は照明なくてもできるから、演劇は後に回そうかとか、中止にしようかって話になって……、

未歩 でも演劇部のみんなが、絶対に中止は嫌だって。

雛子 びっくりしました。私がいた頃のみんなは、サボったり、適当にやったり、もう全ッ然だったのに……。

真優 それで、照明どうなったんですか？

未歩 なんとか上演はできるようになった。

真優 そうですか。

千鶴 じゃあよかったじゃん。中止になんなくて。

雛子（領き）はいっ！

千鶴（笑み）青春じゃん。

未歩 ねー、青春だよね。

千鶴 あ、うちらなんかオバさんくさくない？

未歩 ないよー。やめてよ、まだ十八歳。

千鶴 もう十八歳。

真優 夏実そっち行かなかった？

雛子 いや、見てないや。

真優 入れ違いか。ま、すぐ戻ってくるか。

雛子 どう？スライド。

真優 あー、まだ足りないかも。

雛子 やっぱそっか……。

千鶴 あ！じゃあさ、

千鶴、携帯を取り出し

未歩 あ。

千鶴 いっぱい撮ったからさ、これ使ってよ。

真優 いいんですか？

千鶴 うん。

真優 助かります、ありがとうございます。

未歩 私のも使って。

雛子 ありがとうございます。

千鶴にも一礼する雛子。

真優 てか全然作ってなかったじゃん。

雛子 う、ごめん（千鶴を見る）。

千鶴 そ、それはごめんなさい、うちらが悪うございやした。

未歩 うちらつて。

千鶴 共犯。

真優 どういうこと？先輩、手伝ってくれてたけど。

雛子 え？

千鶴 だから別に、手伝ったってほど、なんもやってないし……後夜祭やりたいって無理言ったのもあるし、ね……。

真優 後夜祭？あ、そうなんですか。へー、やっぱみんな思ってたじゃんね。やっぱり先生頭固いよ。

未歩 みんな思ってるって？

真優 後夜祭、初めの打ち合わせでは意見出ってたんです。やりたいって。

千鶴 え！マジ！？

真優 はい。しかも満場一致で。

千鶴 ……。

雛子、パソコンに向かって作業をし始める。

未歩 じゃあ、どうしてできなかったの？

真優 先生がダメだって。帰りが遅くなって危ないとか、近所迷惑とかなんとか。

未歩 やっぱそうなんだ。

真優 一応抗議したんです。全生徒にアンケートして決めたらどうかって。

千鶴 そしたら？

真優 「ダメ」って。

千鶴 そんな、1年に1回のことなんだからせめて意見くらい聴けって話だよね！

真優 生徒会も先生とは意見が合わないことが多いです。そもそも生徒会は学校の中の一組織で、そこまで自由に物事決めたりできません。でも、

千鶴 でも生徒会は先生のためじゃない！生徒のためにあるのよ！

未歩 おーっ。

真優 でも、学校も生徒のためにある。生徒を守んなきゃいけない。だからダメなんだって、

私たちは納得しました。

千鶴 ……。

真優 先輩と同じようなこと、雛子もちゃんと先生たちに言ったんです。だから納得できたんです。

雛子 真優、そんなこと、言わなくていいから。手伝えっ。

真優（笑み）手伝えって言ったり手伝うなって言ったり、

雛子（皆のほうは向かず、）ってかほんとは！ほんとは、まだ、私納得してないから。

雛子、静かに作業を再開する。

真優、作業に加わる。

未歩 千鶴が生徒会に入ってたなら、案外、後夜祭できてたかもね。

千鶴 ……あのさ。

未歩 ん？

千鶴 後悔って、悪いことじゃないのかも。

未歩 なに、いきなり真面目な話。

千鶴 「あー後悔」って思えたら、それまでの時間とか、無駄じゃないと思う。

未歩 ……そうだね。

遠くから拍手の音が聞こえてくる。

雛子 ね、1回流してみよ。

真優 うん。

雛子、パソコンの再生ボタンを押す。

『サライ』（音響）が流れる。パソコンの画面にはスライドショーが流れる。

夏実が戻ってくる。

夏実 あ、できたんですか！？

千鶴・未歩 できたんですか！？（わざとらしい）

夏実と一緒に覗きこむ未歩と千鶴。

雛子 先輩たちはダメです。

千鶴 なんでえー。

真優 体育館で見てください。

千鶴 けち。

真優（笑み）

夏実 わー、いいじゃないですか！

雛子（ちよっと歌う）

千鶴 音痴。

雛子（声が大きくなる）

真優 うるさい。

雛子（口パクになる）

3人から離れる未歩と千鶴。
バックには『サライ』が静かに流れている。

千鶴　なんか、私また後悔してるかも。
未歩　ん？

千鶴　せつかくの学校祭、楽しんでなかった。

未歩　まだ終わってないじゃん。

千鶴　……ステージ競技ってさ、早食い、あつたよね？

未歩　あつた。

千鶴　飛び入り参加、できないかな？

未歩　できなくてもするでしょ。

千鶴　(笑み) うん。

未歩　あ、息止めもなかったっけ。

千鶴　あつた。桶に水溜めて。

未歩　あれ、出てみたい。

千鶴　じゃあ、行くか。

未歩　行くか。

2人　行っちゃうか！

雛子　あ、先輩っ！

雛子、2人にペンライトを渡し、後ずさりながら笑顔で、

雛子　楽しんで！

未歩　うんっ。

千鶴　(ペンライトを雛子に向け、) 当たったり前よ！

未歩と千鶴、駆けて出ていく。

パソコンの画面を覗き、はしやぐ3人。

(ここでスライドショーをプロジェクターで実際に映す時間があってもよい。

大黒幕を開いてホリ幕に映し、しばらくして止めて照明を戻し、閉会式の

準備を始めるなど)

『サライ』の音量が上がっていく。

幕。